

第1回 国際自殺対策フォーラム

～自殺総合対策の 新たな政策展開～

日
時

平成29年 1月22日(日)

10時～17時(開場:午前9時30分)

会
場

東京大学経済学部小島ホール(1階)

参
加
費

無料

※会場の都合により、事前申し込み制とします。
氏名、所属、連絡先を明記し、下記申込アドレス
までメールでお申し込みください。

ヨーロッパにおける大規模なうつ病介入プロジェクトである EAAD の総括責任者として、同プロジェクトを成功に導いた著名な研究者、ウルリッヒ・ヘゲール教授をお招きし、ヨーロッパの地域介入研究の成果をご報告いただきます。

午後に開催予定のシンポジウムでは厚生労働科学研究のプロジェクトチームの研究者により、我が国の自殺対策への政策提言が討議される予定です。



基調講演者：ウルリッヒ・ヘゲール 教授 (ドイツ・ライプチヒ大学医学部精神科)

シンポジウム：自殺対策の成果をいかに全国の自治体に拡げるか

本橋 豊 (自殺総合対策推進センター長)

椿 広計 (統計センター理事長)

澤田 康幸 (東京大学大学院教授)

清水 康之 (NPO 法人ライフリンク代表)

伊藤 弘人 (国立精神・神経医療研究センター 社会精神保健研究部長)

主 催

国立精神・神経医療研究センター 自殺総合対策推進センター (JSSC)

後 援

厚生労働科学研究費補助金 (障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)) H26- 精神 - 一般 -003
申込アドレス: ekigaku@koto.kpu-m.ac.jp (京都府立医科大学 地域保健医療疫学内)

ご 挨拶

2017年1月22日に開催される第1回国際自殺対策フォーラムに皆様を招待できることを大変うれしく思います。このフォーラムは、自殺対策の政策展開に関して学術的な意見交換を行うことを目的としています。日本では昨年4月に10年ぶりに自殺対策基本法が改正され、新たな枠組みで自殺対策が推進されることになりました。地域自殺対策計画に基づいた自殺対策の推進を都道府県及び市町村が進めていくことが義務化されました。現在、私たちは自殺対策基本法に示された「自殺対策は、生きることの包括的な支援として、全ての人がかげがえのない個人として尊重されるとともに、生きる力を基礎として生きがいや希望を持って暮らすことができるよう、その妨げとなる諸要因の解消に資するための支援とそれを支えかつ促進するための環境の整備充実が幅広くかつ適切に図られることを旨として、実施されなければならない」という理念を実現するための大切な分岐点に立っています。

本フォーラムでは、自殺総合対策に関する様々な知見を国内外の関係者が共有し、お互いの理解を促進したいと思います。基調講演者には、ドイツ・ライプツヒ大学医学部精神科主任教授であるウルリッヒ・ヘゲール教授を招聘し、講演をお願いいたしました。ヘゲール教授は、ヨーロッパにおける大規模なうつ病介入プロジェクトであるEAADの総括責任者として、同プロジェクトを成功に導いた著名な研究者であり、ヨーロッパの地域介入研究の成果をご報告いただきます。午後に開催予定のシンポジウムでは、厚生労働科学研究のプロジェクトチームの研究者により、我が国の自殺対策への政策提言が討議される予定です。

本フォーラムが、将来の自殺対策の政策形成に新たな役割を果たすことになり、国内外の地域自殺対策の推進に寄与することができれば幸甚です。

自殺総合対策推進センター長（国立精神・神経医療研究センター）
京都府立医科大学特任教授
厚生労働科学研究「学際的・国際的アプローチによる自殺総合
対策の新たな政策展開に関する研究」研究代表者

本 橋 豊

プログラム

開催日時： 2017年1月22日（日）
場 所： 東京大学経済学部小島ホール2階

開会挨拶

1. 本橋 豊氏（自殺総合対策推進センター長）
2. 岩井一郎氏（厚生労働省大臣官房参事官、自殺対策推進室長）

(1) 午前の部

基調講演

座長：本橋豊（自殺総合対策推進センター）

自殺行動とうつ病に対する地域を基盤とした4段階介入
ウルリッヒ・ヘゲール教授
（ライプチヒ大学精神科）

昼 食 休 憩

(2) 午後の部

シンポジウム

自殺対策の成果をいかに全国の自治体に拡げるか

本橋 豊： 学際的・国際的アプローチによる新たな自殺総合対策の推進

椿 広計： 統計的証拠にもとづく自殺総合対策の確立に向けて

澤田康幸： 自殺予防 — 経済学からの考察

金子善博： 自殺対策推進のための重要なツールとしての地域自殺実態
プロフィール

伊藤弘人： 地域における医療連携の強化による自殺対策の推進

（敬称略）

基調講演

座長： 本橋 豊（自殺総合対策推進センター）

自殺行動とうつ病に対する地域を基盤とした4段階介入

ウルリッヒ・ヘゲール教授

（ライプチッヒ大学精神科）

自殺行動とうつ病に対する地域を基盤とした4段階介入

ウルリッヒ・ヘゲール教授

ライプチヒ大学 精神科学・精神療法学講座

社団法人・欧州うつ病アライアンス

「欧州うつ病アライアンス」(www.EAAD.net)において概念化された地域を基盤とした4段階介入はうつ病に悩む患者への医療を向上させることと自殺行動を予防するという二つの目的を融合させた取組である。レベル1はプライマリケア従事者の研修と支援のための介入である。レベル2は専門的な広報活動である。レベル3は地域のファシリテーターへの研修である(教師、宗教者、高齢介護者、薬剤師、ジャーナリスト等)。レベル4はうつ病で悩む患者や親族の自助への支援である。異なる複数の国において、レベル1, 2, 3は自殺行動の予防に友好であることが示されている。EUの研究費で行われた「欧州における自殺予防プログラムの最適化とその実施」に関する研究では(www.OSPI-europe.com)、自殺行動の予防への介入効果と中間的介入指標(異なる集団における態度と知識の変化)に関して、欧州4カ国における4つの介入地域と4つの対照地域の更なるデータを得ることができた。系統的なプロセス評価の結果、4つの異なるレベルの同時並行的な介入により相乗的かつ触媒的効果のあることが明らかになった。一部に重複のある標的集団であるうつ病患者と自殺行動企図者を一緒にして介入を行うことは成功をもたらす戦略であることが判明した。以上の知見と22カ国の100地域で実施されている4段階介入からわかることについて、さらに論じる予定である。

- 1) Hegerl et al 2006; Psychol Med 36: 1225-1234
- 2) Székely et al 2013; PLOS One 8: e75081
- 3) Hübner-Liebermann et al (2010): Gen Hosp Psychiatry 32: 514-518.

